

第 12 回日本生殖医療心理カウンセリング学会

2015.02.15、長崎

「不妊治療施設における摂食障害」

・橋本 知子¹⁾、伊藤 啓二郎¹⁾、中岡 義晴¹⁾、森本 義晴²⁾

1)IVF なんばクリニック、2)HORAC グランフロント大阪クリニック

不妊治療における食生活の大切さに当院は以前より注目してきた。また妊娠と BMI の関係についても多くの研究がある。食行動に関わる疾患の一つに摂食障害がある。摂食障害は女性に多く、また心理的な要因も大きいことが分かっている。極端な体重変化は月経に影響をもたらし、体重が正常化した後も正常月経が回復しない場合もある。これらは不妊の一因となる。Freizinger, et al.(2010)によればある不妊治療施設における摂食障害の罹患率は一般罹患率の 5 倍にも及んだ。当院の心理カウンセリングや栄養カウンセリングにおいても摂食障害の既往がある方や、不適切な食行動や排出行動が継続している方と会うことは稀ではない。

特定不能の摂食障害であったことが推測される患者の事例を通して、不妊治療施設における摂食障害に対するサポートの必要性について検討する。